フェロバックス®FIV
(猫免疫不全ウイルス感染症(アジュベント加)不活化ワクチン)

本剤は、3種類の猫免疫不全ウイルス特異感染細胞をそれぞれ増殖させて得たウイルス液を不活化した後に混和し、アジュベントを添加したワクチンである。静脈の投与状態では沈液を認めるが、振動すれば乳白色の均質な懸濁液となり、pHは6.8～7.0となる。

【成分及び分量】
1mL中

<table>
<thead>
<tr>
<th>成分</th>
<th>分量</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>主剤</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>- 猫免疫不全ウイルス感染細胞（不活化）を含むバルク液</td>
<td>相対力価 0.75以上</td>
</tr>
<tr>
<td>- 猫免疫不全ウイルス感染細胞（不活化）を含む核抗体株</td>
<td>相対力価 0.50以上</td>
</tr>
<tr>
<td>不活化剤</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>- ホモアセチル化アルブミン</td>
<td>0.1vol%以下</td>
</tr>
<tr>
<td>アジュベント</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>- エチレングリコール ポリオエチレングリコール</td>
<td>0.01mL</td>
</tr>
<tr>
<td>- アクリル酸 - ステレンコンポリマー</td>
<td>0.03mL</td>
</tr>
<tr>
<td>保存剤</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>- ポリエチレングリコール</td>
<td>0.05mL</td>
</tr>
<tr>
<td>- エキサマー/SA</td>
<td>0.05mL</td>
</tr>
<tr>
<td>破壊剤</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>- ベンゼン蒸気</td>
<td>0.0030mg</td>
</tr>
<tr>
<td>- メタノール</td>
<td>0.0030mg</td>
</tr>
<tr>
<td>消毒剂</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>- イプグメチロינת</td>
<td>0.015mL</td>
</tr>
</tbody>
</table>

【効能又は効果】
猫免疫不全ウイルスの持続感染の予防。

【使用上の注意】
（基本的事項）
1. 奥往ければならないこと

(一般的注意)
- 本剤は、医療師の診察の結果を基に処方箋の指示により使用すること。
- 本剤は、効能・効果において定められた目的のみに使用すること。
- 本剤は、定められた用法、用量を厳守すること。

(徹底の注意)
- 投与用途（皮下注射）を厳守すること。
- 注射部位を消毒し、注射時に注射針が血管に入っていないことを確認し注射されること。

(取扱い及び保管のための注意)
- 外観又は内容に異常を認めめたものは使用しないこと。
- 保管期限を過ぎたものは使用しないこと。
- 本剤は他の薬剤（ワクチン）を混ぜて使用しないこと。
- 小児の手の届かないところに保管すること。
- 注射光は直射日光や露光は品質に影響を与えるので、避けること。

- 使い残りのリヒットは紙等で吸い取り可燃物として処分し、容器は地方公共団体条例等に従い処分すること。
- 使用済みの注射針は、針取回用の専用容器に入れること。
- 針取回用の専用容器は、産業廃棄物集約運搬業及び産業廃棄物処分業の許可を有した業者に委託する。
- 注射器具は、滅菌又は消毒済みとしたものを使用すること。
- 消毒液による消毒及び滅菌によっても使用できるが、含む消毒剤によるものを使わない。
- 使用済みの注射針もゴミ箱から取り、ワクチンを注射針に吸い入れから使用すること。
- 使用済みの注射針をゴミ箱から取り、ワクチンを注射針に吸い入れから使用すること。

【使用者の注意】
- 正しく使用しない人は、患部の消毒等適切な処置をすること。
- 使用済みの注射針は、患部の消毒等適切な処置をすること。

【保存】
8週齢以上の猫、1回1mLずつを2～3週間隔で3回、皮下注射。

【使用上の注意】
（基本的事項）
1. 奥往ければならないこと

(一般的注意)
- 本剤は、医師の診察の結果を基に処方箋の指示により使用すること。
- 本剤は、効能・効果において定められた目的のみに使用すること。
- 本剤は、定められた用法、用量を厳守すること。

(徹底の注意)
- 投与用途（皮下注射）を厳守すること。
- 注射部位を消毒し、注射時に注射針が血管に入っていないことを確認し注射されること。

(取扱い及び保管のための注意)
- 外観又は内容に異常を認めめたものは使用しないこと。
- 保管期限を過ぎたものは使用しないこと。
- 本剤は他の薬剤（ワクチン）を混ぜて使用しないこと。
- 小児の手の届かないところに保管すること。
- 注射光は直射日光や露光は品質に影響を与えるので、避けること。

- 使用済みの注射針は、針取回用の専用容器に入れること。
- 針取回用の専用容器は、産業廃棄物集約運搬業及び産業廃棄物処分業の許可を有した業者に委託する。
- 注射器具は、滅菌又は消毒済みとしたものを使用すること。
- 消毒液による消毒及び滅菌によっても使用できるが、含む消毒剤によるものを使わない。
- 使用済みの注射針もゴミ箱から取り、ワクチンを注射針に吸い入れから使用すること。
- 使用済みの注射針をゴミ箱から取り、ワクチンを注射針に吸い入れから使用すること。

【使用者の注意】
- 正しく使用しない人は、患部の消毒等適切な処置をすること。
- 使用済みの注射針は、患部の消毒等適切な処置をすること。

【保存】
8週齢以上の猫、1回1mLずつを2～3週間隔で3回、皮下注射。

【使用上の注意】
（基本的事項）
1. 奥往ければならないこと

(一般的注意)
- 本剤は、医師の診察の結果を基に処方箋の指示により使用すること。
- 本剤は、効能・効果において定められた目的のみに使用すること。
- 本剤は、定められた用法、用量を厳守すること。

(徹底の注意)
- 投与用途（皮下注射）を厳守すること。
- 注射部位を消毒し、注射時に注射針が血管に入っていないことを確認し注射されること。

(取扱い及び保管のための注意)
- 外観又は内容に異常を認めめたものは使用しないこと。
- 保管期限を過ぎたものは使用しないこと。
- 本剤は他の薬剤（ワクチン）を混ぜて使用しないこと。
- 小児の手の届かないところに保管すること。
- 注射光は直射日光や露光は品質に影響を与えるので、避けること。
（非公募事項）

警告
本剤の注射前の健康状態について検査し、重大な異常（重篤な疾患）を認められた場合には注射しないこと。

対象動物の使用例限界等
対象動物が、次のようなものに該当すると認められる場合には、健康状態及び体質等を考慮し、注射の適否の判断を慎重に行うこと。
・発熱、呼気、体重の変動、皮膚炎等の皮膚疾患
・注射後間が不充分なもの、分娩間隔のもの又は分娩直後のもの

明らかに効果を示すもの
・高齢のもの
・他の薬剤効与、導入又は動物移植が行なわれているもの

観察時間の制限により、発症状態が考えられ、強く、効果の発現に気づくもの
・1年以内にかけて人間発症をしたものが明らかなるもの

important note
・本剤と他のワクチンとの同時接種を避けること。また本剤注射直後に他のワクチンを接種している場合は直接ワクチンにあっては4週間以上、不活化ワクチンにおいては1週間以上の間隔を隔てること。なお、本剤接種後他のワクチンを接種する場合は、1週間以上の間隔を隔てること。

副作用
副作用は、まれにアレルギー性反応（頭面発赤（ムシ・ムシ様）、腫脹、皮膚発赤等）又はアナフィラキシー型（ショック）（怒り、腫脹、血圧低下、呼吸困難、心拍数低下、流産、ふるえ、けいれん、尿失禁等）が起こることがある。アナフィラキシー型（ショック）は本剤接種後30分間までに発現する場合が多く見られる。

・副作用が発現した場合には、速やかに応急処置を講じる。

製品情報お問い合わせ先
ソフェティ・ジャパン株式会社
〒105-0053
東京都港区芝大門1-3-2
TEL:03-6219-5001
FAX:03-6219-5002

【製造販売（輸入）】
ソフェティ・ジャパン株式会社
〒105-0053 東京都港区芝大門1-3-27

（臨床試験成績）
臨床試験において、FTY感染症のないの2～6か月後の観察63頭
に本剤を2～3週間隔で2回接種した。
有効性については、78%と確認したところ、隔離時間および
終了時のELISA抗体値および中和抗体値の推移による判定基準に従い、最も優れたウイルス感染症に対する97.5%
の値が抗体値陽性であった。
安全性については、観察63頭で確認したところ、一過性の食欲
不振、便ファセーション化症状を発現したもの、一過性の投与部位の反応
（発赤、腫脹様）の3頭が確認された。

【有効期間】
観察後2年。

【包装】
1ml（1/10分）/1ml（5分）

【製品情報お問い合わせ先】
ソフェティ・ジャパン株式会社
〒105-0053 東京都港区芝大門1-3-27

【製造販売（輸入）】
ソフェティ・ジャパン株式会社
〒105-0053 東京都港区芝大門1-3-27

※登録番号
10009332-P11
A1

根治師、薬剤師等の医師関係者は、本剤による副作用等による発症症状を疑われる疾病、障害若しくは死亡の発生又は本剤の使用によらるものとされる感染症の発生に関して事前の通知を知った場合には、保健衛生上の危険の発生又は拡大防止するため必
要があると認めるときは、上記製品情報お問い合わせ先に連絡するとともに、農林水産省動物薬品検査所（http://www.
maff.go.jp/nvl/iyakuto/fukusaro/sous/index.html）にも報告をお願いします。